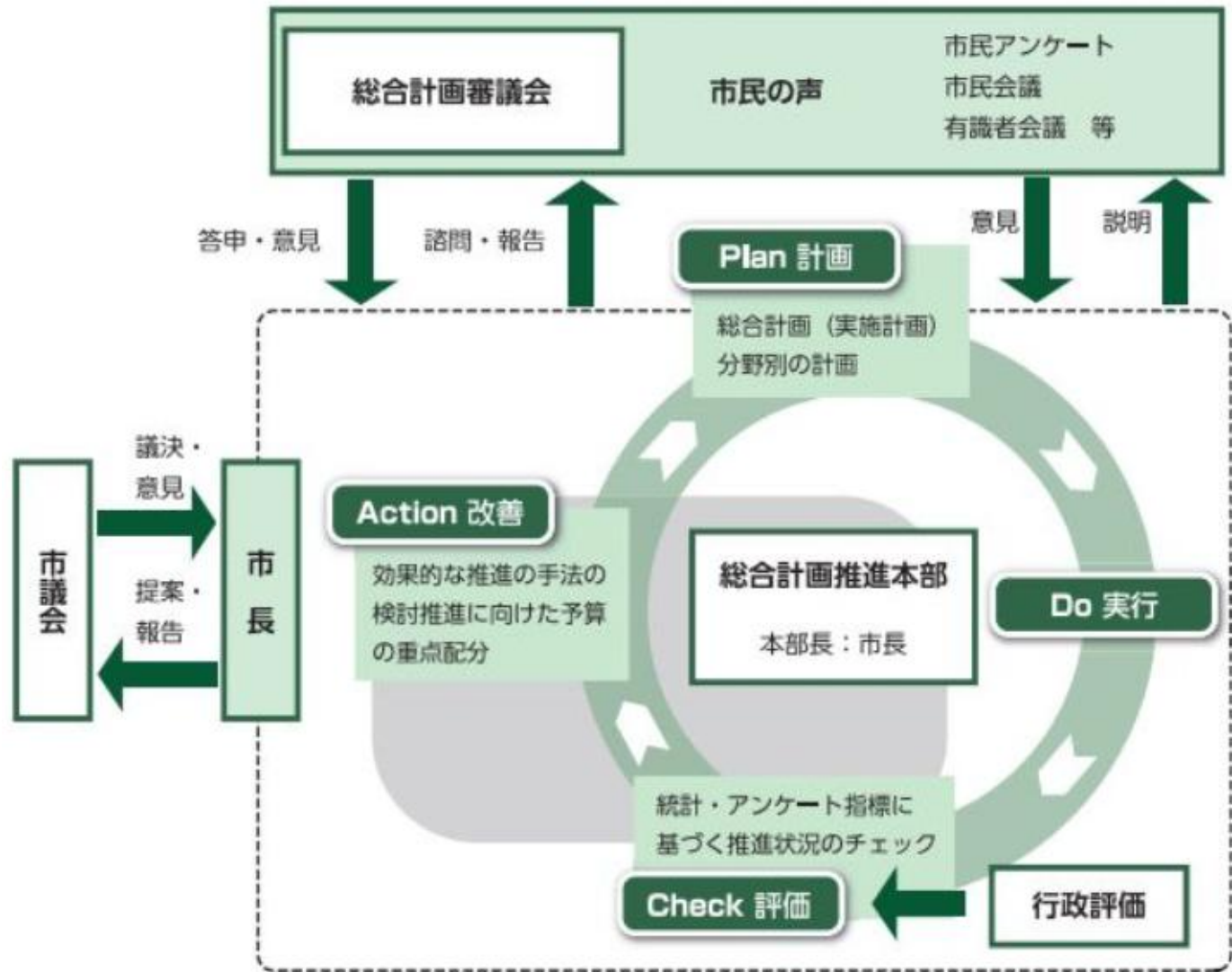


次期長野市総合計画
(2027年度～2036年度)

進捗管理(たたき台)について

令和8年5月
企画課

第五次長野市総合計画の推進体制



現行計画では、まちの将来像実現に向けて、計画の実効性を高めるために、PDCAサイクルによる進捗管理を実施。

基本計画中の施策に指標を設定し、総合計画審議会において、客観的に評価・検証を実施し、総合計画の達成状況を図ってきた。

第五次長野市総合計画の成果指標



統計指標 客観指標

公的統計や民間統計、ビッグデータにより算出した数値。
長期的な傾向把握のため設定。（全81指標※5指標は重複）

第五次総合計画の設定例

- ・合計特殊出生率
- ・健康寿命
- ・温室効果ガス排出量
- ・出火率
- ・全国学力状況調査における平均正答率
- ・観光消費額
- ・農業生産額
- ・推計就業者数
- ・公共交通利用回数

※個別計画の進捗状況と同じ設定が22件/83件



アンケート指標 主観指標

市民に対するアンケートにより、算出した数値。
市民意識を把握するために設定。（全101指標※8指標は重複）

設問の構成

① 環境や体制の評価

目指す状態が達成されているか、市民の実感を問う。

② 回答者自身の実践状況

将来像の実現に向けて、市民自身が行動しているか問う。

調査の実施方法



無作為抽出調査

市民全体の代表性を確保
対象:6,000人 回答:約2,500人



モニター調査

市民意識の変化や推移を把握
モニター人数:237人(R7年度)

① 指標設定の課題

① 指標の設定数が膨大で、指標管理の負担が大きい

(現状:統計指標81 アンケート指標101)

② 総合計画全体の進捗を図る

政策目標となる成果指標が設定されていない

(現状:施策に指標を設定)

③ 施策が目指す姿と、指標との関係性が弱い

<③関連 第五次計画の指標設定状況>

施策名	市民によるまちづくり活動への支援
目指す状態	行政、市民、地域コミュニティ組織、市民公益活動団体、民間企業など多様な主体による共同のまちづくりが、暮らしやすい地域社会につながっている
指標名	地区まちづくり計画または地区地域福祉活動計画に基づく活動に取り組んでいる地区数

施策名	多彩な文化芸術の創造と活動支援
目指す状態	子ども、高齢者、障害者などあらゆる人々が日常から気軽に文化芸術に触れ、常に活発な文化芸術活動が行われている
指標名	市有ホールの利用者数

④ 総合計画と個別計画で指標が重複している

基本方針 (案)

市民の主観的指標を評価の軸に！

「選ばれる都市」を目指すため、成果の実感を重視し、市民の「幸福度」、「満足度」、「安心感」などの主観指標を中心に据えて計画の進捗を図る。

総合計画

総合指標(インパクト)/分野別指標(アウトカム)

市民の主観指標(状態・意識)

- 市民満足度、幸福度
- 安全・安心の実感
- 地域への愛着、誇り
- 参加意欲



指標設定の
役割分担

個別計画

成果指標(アウトカム)/活動指標(アウトプット)

具体的取組の客観指標(成果指標/活動量)

- 工業・農業生産額、観光消費額(成果指標)
- 温室効果ガス排出量、ごみの総排出量(成果指標)
- 講座、イベントの参加者数(活動量)
- 施設、道路等の整備量(活動量)

総合計画と個別計画を整理した、インパクト、アウトカム、アウトプットのKPIを設定することで、**効果的な政策評価**を行う。

イメージ図1

指標設定について、役割分担を明確化

【総合指標(インパクト)】

目指す将来像の実現における進捗を測るための指標

指標の例

- 幸福とを感じる市民の割合
- 生活に満足とを感じる市民の割合

総合計画に
設定

【分野別指標(アウトカム)】

総合指標の達成を図るうえで各分野において重視する指標
※分野を包括した指標

指標の例

- 子育てしやすいまちと思う市民の割合
- 災害に強いまちだと思ふ市民の割合
- 経済的に活力のあるまちだと思ふ市民の割合

【成果指標(アウトカム)】

総合指標の達成を図るうえで各分野において重視する指標
※分野を包括した指標

指標の例

- 工業・農業生産額
- ごみの排出量
- スポーツ実施率

個別計画に
設定

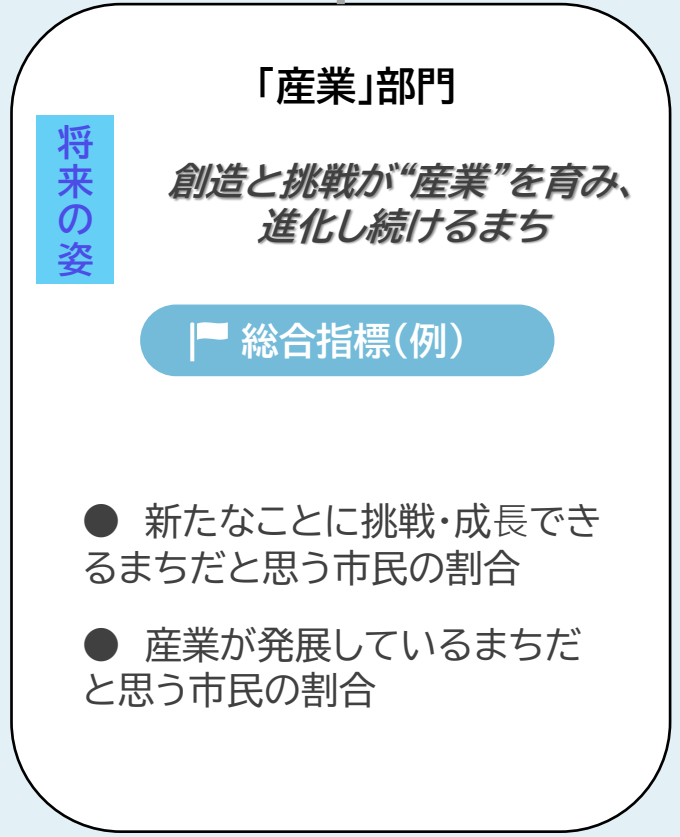
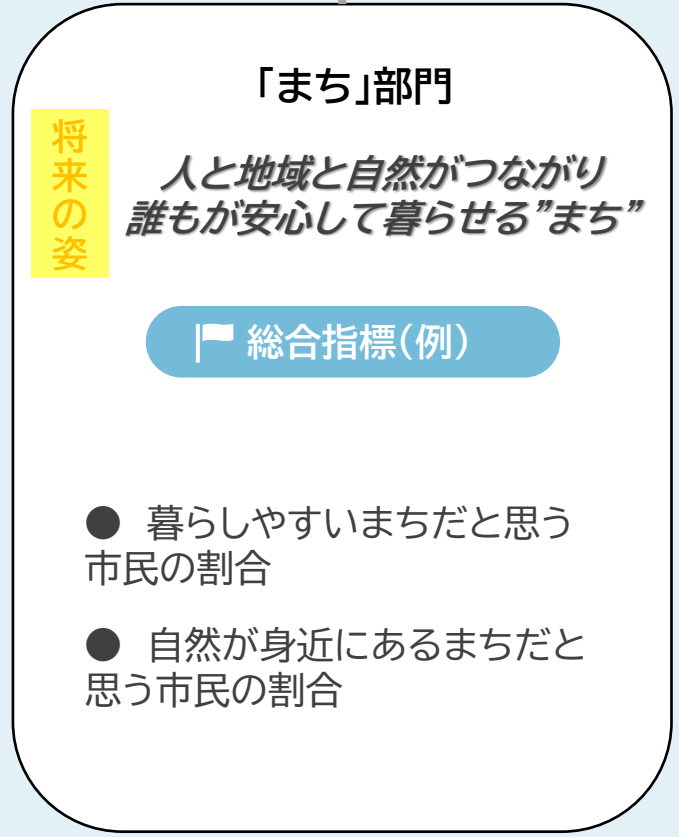
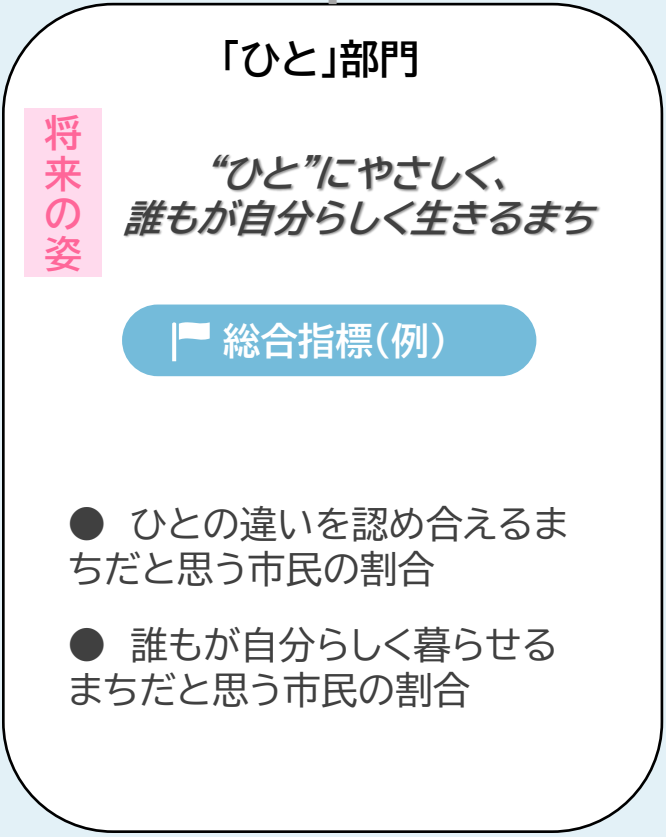
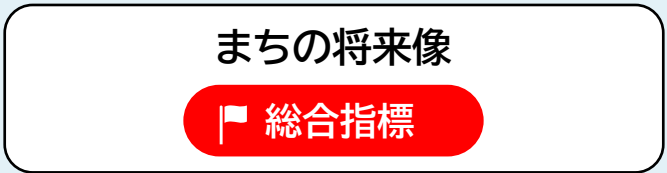
【活動指標(アウトプット)】

具体的な取組状況の達成度を測るための指標

指標の例

子育て分野	産業分野	環境分野	スポーツ分野
<ul style="list-style-type: none"> ●あのえつとの相談件数 ●「みらいハッ!ケン」プロジェクト利用率 	<ul style="list-style-type: none"> ●ナガノシゴト博の参加者数 ●空き店舗活用事業利用件数 	<ul style="list-style-type: none"> ●バイオマス発電量 ●環境保全活動参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> ●総合型地域スポーツクラブの会員数 ●国際大会・全国大会等の開催数

イメージ図2



イメージ図3

基本計画(5年間)

子ども・若者

分野別指標

- 子育てしやすいまちだと思ふ
- 若者が活躍できるまちだと思ふ

教育

分野別指標

- 学びたいことが学べるまちだと思ふ

環境

分野別指標

- 空気や水がきれいなまちだと思ふ
- ごみが少ないまちだと思ふ

コミュニティ

分野別指標

- 地域活動が盛んなまちだと思ふ
- 地域活動に参加している

文化芸術

分野別指標

- 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしいまちだと思ふ

観光

分野別指標

- 魅力的な観光都市だと思ふ

福祉

分野別指標

- 高齢者にとって暮らしやすいまちだと思ふ
- 障害児・者にとって暮らしやすいまちだと思ふ

健康・医療

分野別指標

- 身体的に健康だと思ふ
- 精神的に健康だと思ふ

防災・安全

分野別指標

- 災害に強いまちだと思ふ
- 火災の少ないまちだと思ふ

都市整備

分野別指標

- 公共交通機関が便利なまちだと思ふ
- 景観やまちなみが美しいまちだと思ふ

スポーツ

分野別指標

- スポーツが盛んなまちだと思ふ

農林業

分野別指標

- おいしい農産物が生産されるまちだと思ふ
- 森林が整備されたまちだと思ふ

商工業

分野別指標

- 地域のお店に活気がある

②調査手法の課題

① 市民アンケートにおいて、**年代別の回答状況に大きく差がある。**

(現状:20代回答数 141件 60代回答数 528件)

② モニターの回答状況において、**理由の記載が不十分なものや、明確でないものが散見される**

市民アンケート

継続して市民意識を調査。調査方法については以下のとおり実施。

	現行計画	次期計画
実施頻度	毎年実施	毎年実施
調査対象	長野市在住18歳以上男女6,000名	長野市在住18歳以上男女6,000名
調査方法	郵送法	郵送と電子の併用
サンプルの抽出方法	住民基本台帳から等間隔無作為抽出	年代構成を考慮した抽出 (不均等層化抽出(オーバーサンプリング))

モニター調査

モニターとしては実施せず、別の手法で、回答の理由を把握。

	現行計画	次期計画
調査対象	長野市内に在住か通勤・通学の15歳以上(R4.4.1時点)で、 市政に関心をお持ちの方(後期計画) (令和7年度時点で237人)	市民アンケート対象者のうち●●名を抽出 (抽出にあたっては、年代、性別、地域等を考慮)
調査方法	原則電子回答(一部郵送回答)	郵送と電子の併用
回答内容	アンケート回答+回答の理由	アンケート回答+回答の理由

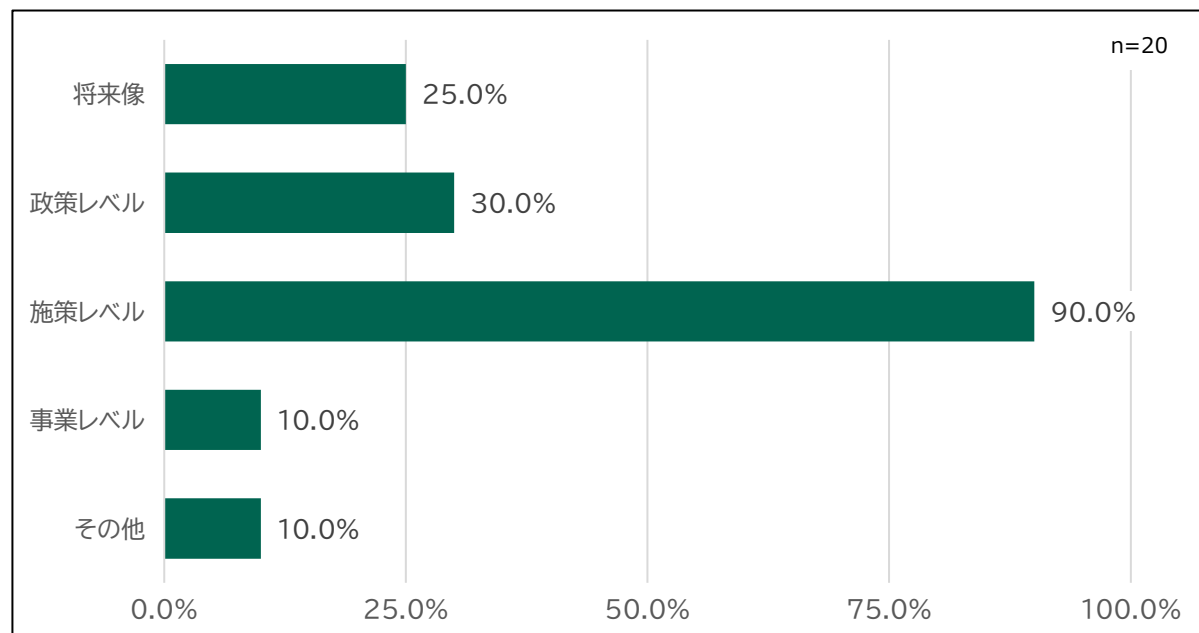
中核市アンケート結果

アンケート調査の概要

(※令和7年度一般財団法人地方自治研究機構との「市民意見の聴取に関する共同調査研究事業において実施」)

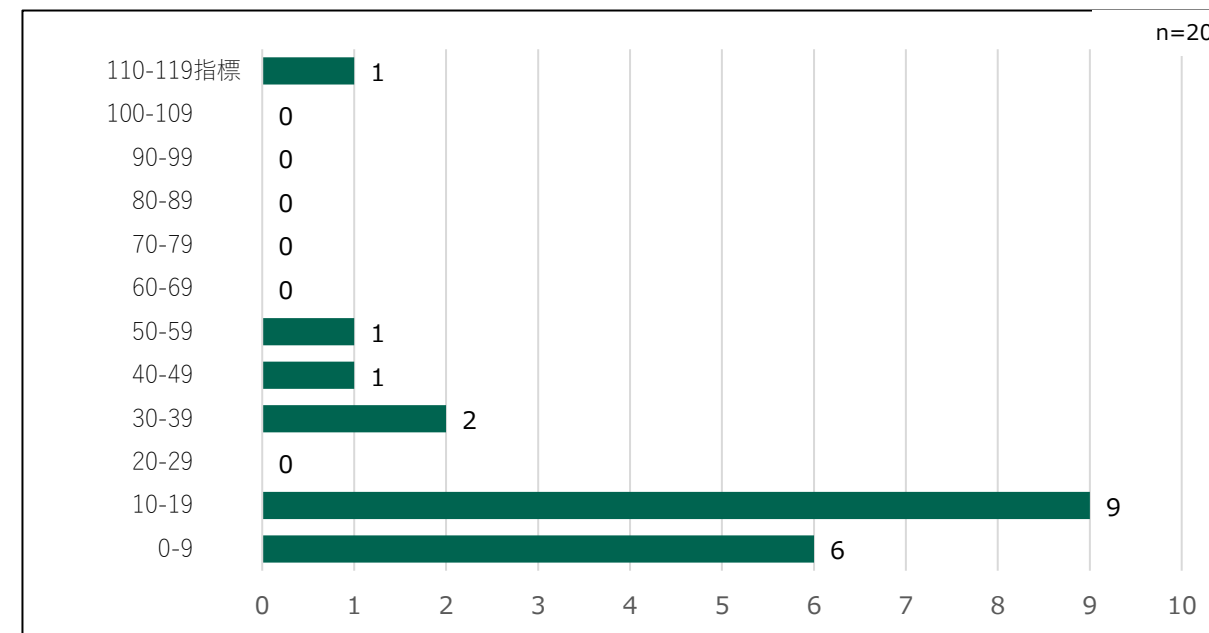
項目	内容
① 調査期間	➤ 令和7年(2025年)10月21日(火)から11月7日(金)まで (18日間)
② 調査対象	➤ 長野市を除く 中核市のうち県庁所在都市である都市:26市
④ 調査内容	➤ 総合計画の進捗管理における市民アンケートの実施状況について
⑤ 回収数	➤ 回答総数:22件(回収率:84.6%)

【総合計画におけるアンケートで把握するKPIの設定レベル】



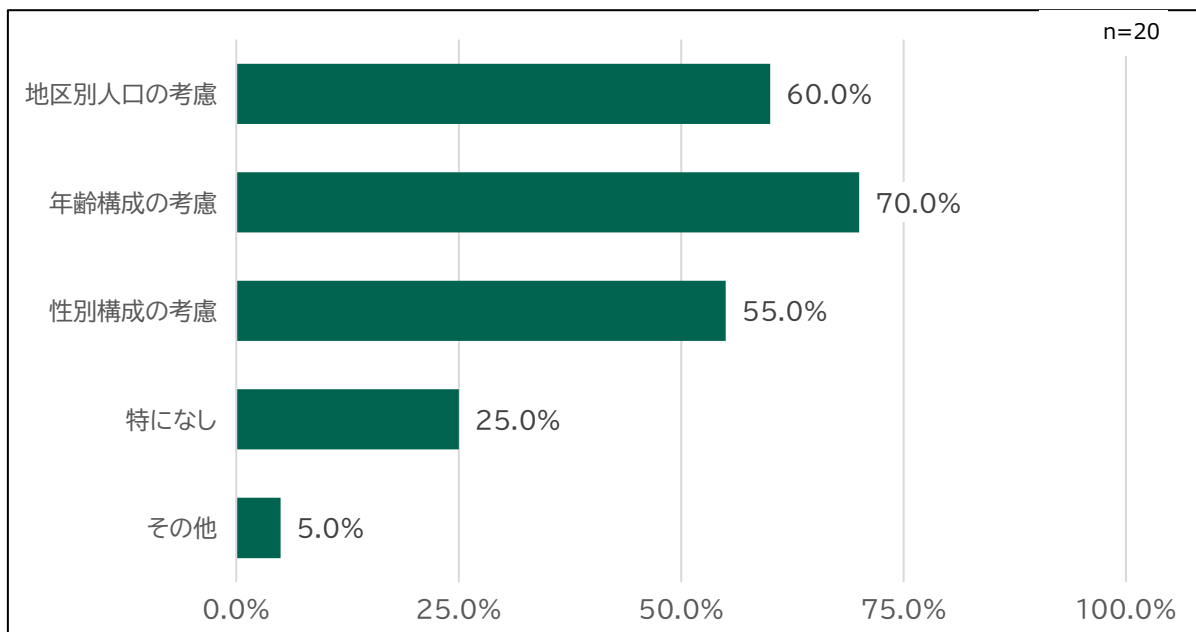
多くの中核市において、現行計画と同じ施策レベルでの指標を設定一方で、一部の中核市では将来像、政策レベルにも設定

【市民アンケートで把握しているKPI指標数】



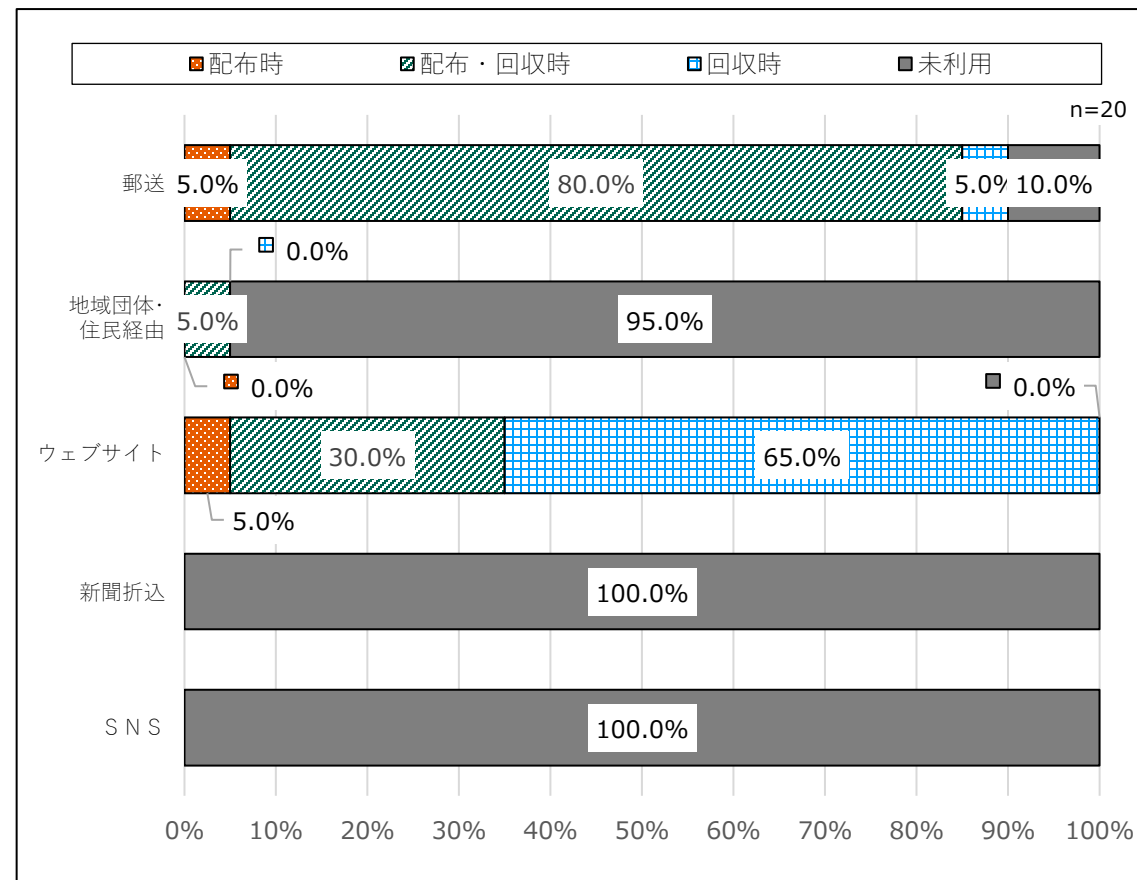
多くの中核市において、20個程度の指標数を設定している100以上のという回答も1件あったが、見直しを予定中とのこと

【調査対象者(発送サンプル)の抽出に当たって工夫していること】



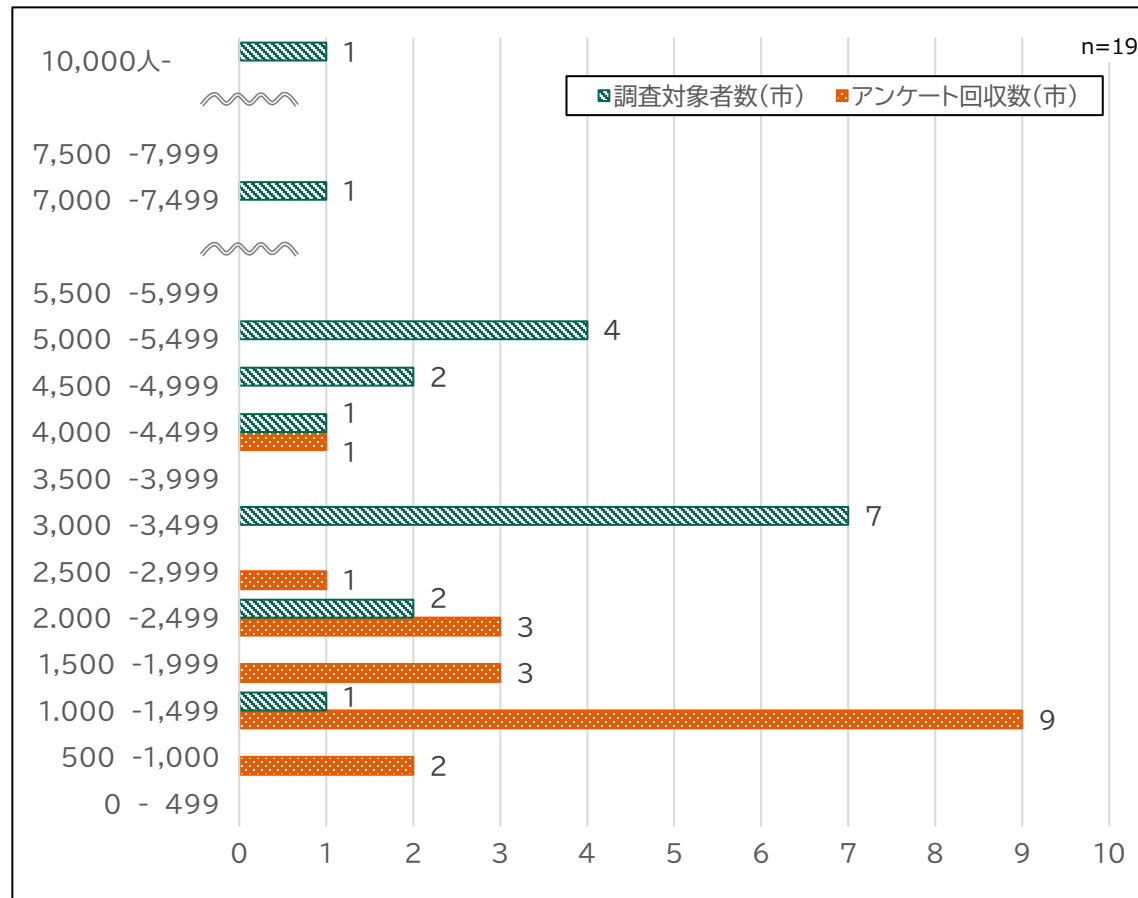
多くの中核市において、年齢構成を考慮しサンプルを抽出
 その他、地区や性別についても考慮している自治体が半数以上

【市民アンケートの配布及び回収方法】



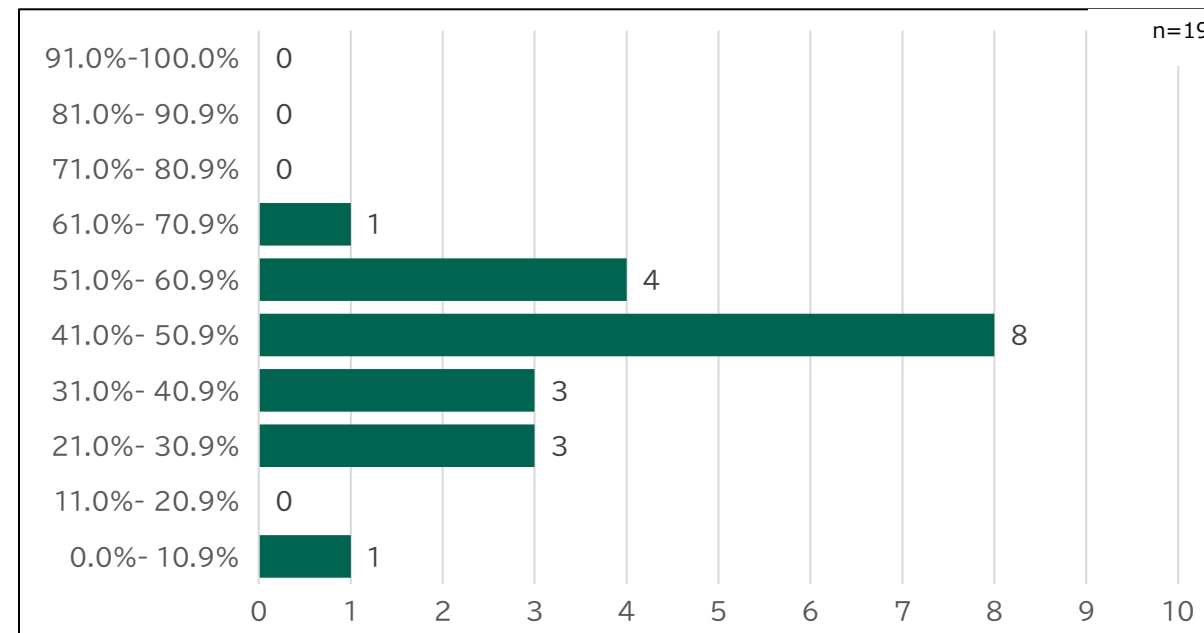
多くの中核市において、ウェブサイト(電子回答)を併用

【調査対象者数及び回収数の状況(サンプル調査実施団体)】



対象者はばらつきがあるが、約3,000人という回答が多い
回収数は、1,000件~1,500件が最も多い

【回収率の状況(サンプル調査実施団体)】



回収率についても、40%~50%という回答が多い

※令和7年度一般財団法人地方自治研究機構との「市民意見の聴取に関する共同調査研究事業において、委託した基礎調査機関株式会社マインズ・アイが算出

【総合計画推進のための市民アンケート(令和6年度) 95%信頼区間】

	住民基本台帳人口 (人) (N)	回答数 (件) (n) (年代不明者除く)	回答率 50% (p = 0.5) 時の 標本誤差	95%信頼区間 (最大時)
18~19 歳	6,666	31	±17.6%	32.4% ~ 67.6%
20~29 歳	33,336	141	± 8.2%	41.8% ~ 58.2%
30~39 歳	35,482	240	± 6.3%	43.7% ~ 56.3%
40~49 歳	46,755	330	± 5.4%	44.6% ~ 55.4%
50~59 歳	54,385	472	± 4.5%	45.5% ~ 54.5%
60~69 歳	45,295	528	± 4.2%	45.8% ~ 54.2%
70 歳以上	89,749	822	± 3.4%	46.6% ~ 53.4%
合計	311,668	2,564	± 1.9%	48.1% ~ 51.9%

※標本誤差・・・調査結果の数値が、母集団の値とのズレ
±5%以内だと精度が高い(ズレが小さい)

全体では、標本誤差が小さい結果。
年代別では、50代以上は小さいが、若年層になるにつれて誤差が大きい

【総合計画推進のための市民アンケート年齢別回答者と住民基本台帳年齢別人口の適合度(χ²乗検定)】

年齢区分	総合計画推進のための 市民アンケート 回答数 (件) (令和6年度)	住民基本台帳人口 ¹⁵ の 構成に基づく期待度数	χ ² 係数
18~19 歳	31	55	10.4
20~29 歳	141	274	64.7
30~39 歳	240	292	9.2
40~49 歳	330	385	7.8
50~59 歳	472	447	1.4
60~69 歳	528	373	64.8
70 歳以上	822	738	9.5
計	2,564	2,564	167.8(A)

※自由度は年齢階層が7区分のため6となる。このとき5%水準の棄却値は12.59(B)
このとき、167.8(A)(χ²係数) > 12.59(B)となるため、
「アンケート回答者数の年齢構成」と「住民基本台帳人口の年齢構成」は同一とはいえない。

※χ²乗検定・・・実際のデータと期待値とのズレが単なる誤差か、関連のある差か判断する統計手法

年齢構成まで考慮すると、アンケート結果は、母集団に対する代表性を持つとはいえない